

## 別紙

### 福山リサイクル発電株式会社福山リサイクル発電所温室効果ガス削減実施状況報告書

#### 1 事業の概要

##### (1) 事業所の名称

福山リサイクル発電株式会社 福山リサイクル発電所

##### (2) 事業所の所在地

広島県福山市箕沖町107番8

##### (3) 業種

ごみ処分業 8816

#### 2 計画の期間

本計画の期間は平成18年度を基準年度とし、平成26（2014）年度～平成30年（2020）年度までの5年間とする。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：売電量（千kWh）当りのCO<sub>2</sub>排出量（t）

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a) 平成18年度	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c) 平成30年度	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d), 下段：削減量の対基準年度比(e))				
			平成26年度	平成27年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	0.04528	0.04357 3.8	0.05041 -11.3	0.05106 -12.8			
非エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	0.63213	0.62794 0.7	0.61584 2.6	0.62522 1.1			
メタン							
一酸化二窒素	0.04430	0.04307 2.8	0.04188 5.5	0.04252 4.0			
フロン類							
温室効果ガス 総排出量	0.72171	0.71458 1.0	0.70813 1.9	0.71878 0.4			
エネルギー消費 原単位（原油換 算kl）	0.05188	0.04836 6.8	0.05398 -4.0	0.05501 -6.0			
実績に対する 自己評価		<p>非エネルギー起源CO<sub>2</sub>及び一酸化二窒素の排出量が対前年度より増加しているのは、廃棄物燃料であるRDFの受入量が多くなり、処理量が増加したことによりものであります。</p> <p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>は、設備トラブルによる操業停止多く発生したことにより、熔融炉立上げ・立下げ操作回数が増加し、結果的に立上げ・立下げに必要な補助燃料（コークス・灯油）の使用量が増加した事により、エネルギー消費原単位が増加した。</p> <p>ただし、設備トラブル対策については、装置メーカーにてプロジェクトチームを発足して、鋭意対策の検討と実施を進める中で、平成28年1月末には一連の対策が完了して、その後は同様のトラブルは発生していないので、平成28年度は立上げ・立下げに伴う補助燃料の使用は減少すると考えている。</p>					

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100      削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	補助燃料使用量削減	—	・設備トラブル回数が多く発生し、突発対応を優先したため、熔融炉立上げ、立下げ操作における補助燃料（灯油及び石炭コークス）使用量削減の取組が出来なかった。
2	所内電力量削減	—	・同上
3	電気使用量の削減	—	・空調機適正温度管理（冷房 28℃）暖房（20℃）を表示し、管理を徹底した。 ・不要照明の消灯を徹底した。
4	送電効率の向上	—	・設備トラブルの発生が多くなり、RDFの処理を優先したため、送電効率が高い冬季の操業調整が出来なかった。

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	光化学オキシダント 夏期特別対策（6/1～8/31）期間における窒素酸化物排出量10%削減	管理値 5.0 ⇒ 4.5 ppm（10%削減）	6/1～8/31の11:00～17:30の間 管理値 5.0 ⇒ 4.5 ppm（10%削減）にて運転

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。